

世界で初めて商用化されたF-32M方式 端局中継装置

登録番号	第 00275 号		
登録年月日	令和元年9月10日	登録区分	第一種

名称 (型式等)	F-32M-1形端局中継装置
所在地	東京都武蔵野市
	NTT技術史料館
所有者 (管理者)	日本電信電話株式会社 情報ネットワーク総合研究所
製作者(社)	日本電気株式会社
製作年	1981年
初出年	1981年
選定理由	世界で初めて、グレーデッドインデックス・マルチモード光ファイバ(GI)ケーブル、F-32M(波長 $1.3\mu\text{m}$ 、伝送容量 32Mb/s、中継間隔 20km)方式を用いて商用化された中継機である。都市内の電話局の間の中継線や比較的短い距離の市外回線に用いられた。県内中継伝送といった中距離用のF-100M方式も同じ時期に商用化され、本格的な光ファイバ通信時代の幕開けとなった。大容量のデジタル伝送を低コストで実現する光ファイバケーブル伝送方式で世界に影響を与えた日本の技術開発を示すものの一つとして重要である。
登録基準	一ーイ (科学技術の発展の重要な側面及び段階を示すもの) 二ーロ (日本経済の発展と国際的地位の向上に一時代を画するような顕著な貢献のあったもの)

公開・非公開	公開
写真	
その他参考となるべき事項	